

市販の黄色粘着トラップによる キスジノミハムシ誘殺数の比較

星野 滋（広島総研・農技セ）

広島県のダイコン産地ではキスジノミハムシの被害が多発して問題となっている。キスジノミハムシ成虫の発生を把握するためには、トラップによる調査が有効である。また、キスジノミハムシ成虫は黄色に誘引されることが明らかとなっている(道上・石崎, 1973)。そこで、現在、市販されている黄色粘着トラップへのキスジノミハムシ成虫の誘殺数を比較し、誘殺数の多いトラップを検討した。

材料および方法

市販の黄色粘着トラップの虫とり君®（淡黄色）、New 虫バンバン®（蛍光付加淡黄色）、ホリバー®イエロー（黄色）の3つの商品を供試した。トラップの色差値を色彩色差計（MINOLTA CR-267）で測定した。

虫とり君®, New 虫バンバン®, ホリバー®イエローは大きさを13cm×10cmにそろえ、虫とり君®は白色の紙に両面テープで固定した。それらをグラスファイバーの棒に固定し、キスジノミハムシを多発させたコマツナ圃場（株当たり平均4.0頭）に、トラップの底辺が地上から3cmの高さになるように設置した（3反復）。調査は8日間行い、24時間毎にトラップを移動させ、色彩トラップに誘引されるキスジノミハムシ成虫数を見取り調査した。

結果および考察

虫とり君®とNew 虫バンバン®の色差値は、ホリバー®イエローに比べ、色の明るさと緑色の鮮かさが小さかった（表1）。虫とり君®とNew 虫バンバン®のキスジノミハムシ成虫誘殺数は、ホリバー®イエローよりも2倍以上多かった（表2）。

以上のことから、黄色のトラップでも、色は明るさおよび緑色の鮮かさが小さい方がキスジノミハムシは誘引されやすいと推察された。このため、キスジノミハムシの発生推移等の調査には、虫とり君®とNew 虫バンバン®が有効と考えられた。

発生予察調査に使うためには、虫とり君®やNew 虫バンバン®の圃場内の必要設置数および設置場所、トラップへの誘殺数と作物上での成虫の発生数との関係を明らかにする必要がある。

表1 黄色粘着トラップの色差値

	L*	a*	b*
虫とり君®	24.5±8.7	-3.7±1.2	18.2±6.4
New 虫バンバン®	25.4±5.1	-6.8±1.3	17.2±3.6
ホリバー® イエロー	32.9±6.5	-4.2±0.9	25.5±6.1

注) 1枚のトラップを7回測定した平均値±標準偏差

表2 黄色粘着トラップへのキスジノミハムシ成虫の誘殺数（トラップ当たり虫数）

	誘殺数
虫とり君®	25.3±5.5 a
New 虫バンバン®	24.7±8.1 a
ホリバー® イエロー®	9.7±2.9 b

注) 1)設置は2012年9月11日～19日

2)調査期間8日間、トラップの位置はそれぞれ、24時間毎に移動させ、ローテーションを行った（3反復）。平均値±標準偏差

3)異なる英小文字はTukey検定5%水準で有意差あり